ごまめの歯ぎしり
（商標登録番号・第4234817号）
－第65号－
河野太郎事務所

ホームページ https://www.taro.org/
自民党神奈川県第15選挙区支部
平塚事務所
〒254-0811 平塚市八重咲町26-8
TEL 0463-20-2001
茅ヶ崎事務所
〒253-0045 茅ヶ崎市十間坂1-2-3-2F
TEL 0467-86-2001
議員会館
〒100-8982 千代田区永田町2-1-2
衆議院第二議員会館1103号室
TEL 03-3508-7006

河野太郎の国会報告

ゴーフォーブローク

茅ヶ崎市とハワイ州のホノルル市の姉妹都市提携が一〇年を超え、茅ヶ崎市内でアロハマーケットが盛大に行われたり、ＡＬＯＨＡの看板が茅ヶ崎市役所前に建てられるようになりました。

しかし、残念ながら、ハワイの歴史、とくに明治元年から戦前にかけてハワイに渡った日本人の歴史について、日本ではあまり知られていません。

戦前の移民

日本からハワイへの移民が始まったのは一八六八年（明治元年）。このときに渡航した一五三人は「元年者（がんねんもの）」と呼ばれるようになりました。一八八六年に日本と当時のハワイ王国の間で日布（ハワイ）移民条約が結ばれると、政府が斡旋する移民（官約移民）が始まり、三万人が渡りました。一八九四年からは民間会社を通した移民の斡旋（私約移民）が行われるようになりました。

その後、一八九八年にハワイがアメリカに併合されると、新規の移民を認めないとする日米の非公式な協定が結ばれ、一九二四年に米国の移民法によって、日本からの移民は終わりを告げました。

第二次世界大戦

日系人の多くは、移民先で、過酷な労働をしながら、アメリカ国民としての義務を果たし、よきアメリカ国民になろうと努力していました。稼いだお金を子供たちの教育のために注ぎ、アメリカで生まれ、アメリカ国籍を持つ二世の地位向上に熱心に取り組みました。

しかし、一九四一年に真珠湾攻撃が行われると、ルーズベルト大統領が大統領令九〇六六号を発令し、アメリカ本土では、アメリカ国籍を持っているかどうかにかかわらず、十二万人を超える日系人が強制収容所に送られました。

他方、ハワイではすでに人口の三分の一が日系人だったため、日系社会の有力者を除き、多くの日系人は街中で暮らしていました。母国と信じていたアメリカ政府や社会の仕打ちに怒った本土やハワイの日系人の中には、日系人も立派なアメリカ人であることを示すため、軍役を志願する者が出るようになりました。

一九四二年、ハワイ州兵の日系人を中心に、第一〇〇歩兵大隊（100th Infantry Battalion）が編成され、翌年には、ハワイの日系人と、アメリカ本土の強制収容所から志願した日系人で「ゴーフォーブローク（Go for Broke）、当たって砕けろ」をモットーとした第四四二連隊（442nd Regimental Combat Team）が編成されます。

第一〇〇歩兵大隊は、イタリアのサレルノに上陸し、連合軍の先頭に立って、ローマまであと十キロまで迫ります。しかし、そこでストップがかかり、他の米軍部隊が先頭になってローマに入城することになります。

⇐P4に続く

茅ヶ崎市長 佐藤光 × 衆議院議員 河野太郎

『茅ヶ崎の未来を創る対談』

猛暑や災害への備え、子育て支援、高齢者福祉、地域活性化――。茅ヶ崎市が進める「誰もが安心して暮らせるまちづくり」について、佐藤光市長に伺いました。

河野　まだ6月ですが、かなり気温が高くなってきましたね。日本の夏は東南アジアの人たちからも暑いと言われるようになりました。そんな中で、茅ヶ崎市は公立の小中学校全ての体育館にエアコンの設置が終わりました。

佐藤　子どもたちの熱中症予防はもちろん、災害時の避難所にもなる体育館なので思い切って決断しました。災害時には停電でも使えるように非常用電源も整備しました。

河野　県内の市で体育館のエアコン設置率一〇〇％はまだ、海老名市と綾瀬市と茅ヶ崎市だけ。普通教室だけではなく理科室などの特別教室にもエアコンが付き、総合体育館にもエアコンが整備されるなど、県内でも先行しています。茅ヶ崎市では、次世代が健やかに育つまちづくりが進んでいますね。

佐藤　妊娠中また出産後の育児をサポートするために、産前産後ヘルパー事業を始めました。家事などの支援を受けて、余裕を持って子どもと向き合う時間がとれると好評です。保育園では待機児童がゼロになり、小学校に加えて中学校でも給食を食べられるようにしました。また、小児医療費も高校三年生まで所得制限なしで助成を受けられるようにしました。さまざまな課題に直面する子どもを支えるために、学校に配置されるソーシャルワーカーを四割増員しました。

河野　茅ヶ崎市と湘南ベルマーレが提携して、自ら考え行動する人材を育成する教育プログラム「サステナトレセン」をはじめ、人づくりのためのプロジェクトが充実してきましたね。子どもたちのスポーツや芸術活動を応援する応援金制度やスポーツや文化で活躍する子どもたちが出演する茅ヶ崎ＦＭ「ちがすき」も評判です。小学校の水泳教室をスイミングスクールに委託することで本格的な指導も始まるようですね。

佐藤　全ての子どもが共に学べるように市内六校の小中学校に特別支援学級を新たに設置しました。また市が委託した看護職員が家庭を訪問して医療的ケアが必要な子どものためにケアと見守りを行う事業も始めました。

河野　これを利用したご家族の介護の負担が軽減され、他の子どもと過ごす時間を増やすことができるようになったと聞いています。

佐藤　子どもたちだけでなく、ご高齢の方々も安心して茅ヶ崎で暮らしていただけるように、多くの方にフレイル予防の普及啓発を行うと同時に、後期高齢者の検診結果から健康リスクの高い方を抽出して支援するという両面から健康寿命を延ばしていこうとしています。まちかどベンチの設置や歩道のバリアフリー化、そして暑い夏には公共施設を冷房の入った一時休憩所として使っていただき、高齢者が外出しやすい環境を創り出しま

す。

河野　厚労省は健康寿命の全国データを四年ごとに取っていますが、男性は全国平均が七九・六五歳に対して茅ヶ崎は八一・三二歳、女性は全国八三・九八歳に対して八五・三七歳と健康長寿のまちを実現しています。

佐藤　高齢化が進むと福祉のニーズも複雑になります。庁内の連携強化はもちろん、成年後見支援センターを市役所内に移転したのをはじめ、庁外の支援機関とも連携して隙間のないようにセーフティネットを強化しています。市内の高齢化とともに救急車の搬送回数も増えています。意識のない傷病者や薬を把握できていない高齢者の情報をマイナ保険証から読み取って迅速な救急搬送につなげるマイナ救急などの取り組みも積極的に取り入れています。

河野　茅ヶ崎市では、地震や台風などの災害時に一人では移動しにくい高齢者や障がい者の避難を支援するために、避難先や避難経路、支援してくれる人などを確認しながら消防や警察、自治会等と一緒に避難計画を作成する専門家と一緒に個人々々の避難計画を作成する取り組みを始めています。これはいざというときに違いが出てきますね。

佐藤　河野代議士が、防災担当大臣時の熊本地震の経験から、避難所にトイレとお風呂をと口酸っぱく言われていたので、避難所に循環式のお風呂システムと手洗い器、それに災害用給水タンクと簡易トイレを配備しました。小出川の改修にあわせた浜園橋の掛け替えと千ノ川の拡幅、下水管路の耐震化などの災害対策のハード事業も進めています。また、次の感染症危機が起きたときに、保健師などの専門職を行政機関外から支援に入ってもらえる体制をつくり、実践型訓練も行うとともに、危機時の拠点にもなる保健所庁舎の整備を始めました。

河野　昨年七月に開業した道の駅は、にぎわいの拠点となりましたね。

佐藤　道の駅の売上に応じて茅ヶ崎市にも歳入がもたらされます。また、市役所前広場を活用したイベントは年間一五〇日となり、にぎわいだけでなく市民活動の拠点にもなってきています。これから農作物や水産物を活用した新たな特産品を作り出したり、六次産業化につなげます。歴史的な建造物を民間の力でもっと活用ができるようにしたり、ベルマーレをはじめ湘南地域のプロスポーツチームをもっとまちづくりと連動していきます。

河野　コロナ禍で苦しんでいた飲食事業者を支援するために佐藤市長の働きかけでキッチンカーが県内で自由に営業できるようになりましたが、それが街中でのイベントの活性化につながり、さらに災害時には炊き出しに協力してもらえる体制もできました。

佐藤　これまで多くのアーティストやクリエイターを輩出してきましたが、これからも文化、芸術の力をまちづくりや観光に活かせるように、「クリエイターシティ・チガサキ」を打ち出します。河野代議士は自民党内でアートの責任者として活躍されているので、ぜひ、ご協力をお願いします。



「最も勇敢な部隊」

一九四四年十月、第一〇〇歩兵大隊を編入した第四四二連隊は、フランス東部アルザス地方ブリエアの攻略戦に投入され、ドイツ軍との激戦の末、街を解放します。戦後、この街の通りの一つが「第四四二連隊通り」と名付けられます。

ブリエアの戦闘で大きな犠牲を出し、休養も与えられていなかった第四四二連隊に、ボージュの森でドイツ軍に包囲され「失われた大隊」と呼ばれた米軍の通称「テキサス大隊」二七五名の救出作戦への出動命令が出されました。第四四二連隊は、ついにテキサス大隊の生き残り二一一名の救出に成功しますが、自らは戦死者五六名、負傷者八百名を出し、「最も勇敢な部隊」と呼ばれます。

その後も第四四二連隊は作戦に投入され続け、ようやく後方に下がった際の師団長閲兵に三千名いるはずの兵が八百名しかおらず、「部隊全員を整列させろといったはずだ」と怒った師団長が、「将軍、目の前に居るのがその全員です。(This is all the men, sir)」と聞いてショックでスピーチができなかったというエピソードがあります。

その後、第四四二連隊は、兵員を補充され、イタリア戦線でドイツ軍と戦います。また、第四四二連隊傘下の一部部隊は、ドイツ国内のダッハウ強制収容所を解放しますが、日系人部隊が強制収容所を解放したという事実が公表されたのは一九九二年になってからでした。

戦後への影響

第四四二連隊は、合衆国陸軍の中で最多となる七枚のアメリカ大統領部隊感状を含め、部隊全体で一万八千もの勲章や賞を受け、「規模と従軍期間に比べ、米軍史上もっとも多く勲章を受けた部隊（The most decorated unit for its size and length of service in U.S. military history)」と言われ、戦後、トルーマン大統領はホワイトハウスの芝生に第四四二連隊を招き「敵兵だけでなく、偏見と戦って勝利を得た」と称えました。

さらに二〇一〇年には米国議会の議決により第一〇〇歩兵大隊と第四四二連隊の功績に対し、アメリカ合衆国で最も歴史があり、最高位の勲章である議会名誉黄金勲章が授与されました。

こうした日系人部隊の活躍は、アメリカ国内における日系人社会の地位の向上に大きく寄与しただけでなく、アメリカの公民権運動にも影響を与えています。

ハワイでは今でも、第一〇〇歩兵大隊と第四四二連隊は誇りをもって語られていて、私も外務大臣時代にハワイを訪問し、日系人部隊の生存者にお目にかかりました。

第四四二連隊の一員としてヨーロッパで戦い、片腕を失ったダニエル・イノウエ大尉は、戦後、ハワイ州から上院議員に当選し、大統領継承順位第三位の上院仮議長にまでなりました。

一九八〇年にカーター大統領が強制収容と大統領令九〇六六号に関する調査委員会を発足させ、私がワシントンに留学していた一九八三年に、調査委員会が大統領令の必要性は正当化できないと結論づけ、公式な謝罪と一人二万ドルの賠償金の支払いを提案します。一九八八年、レーガン大統領が市民自由法に署名し、強制収容に対して正式に謝罪するとともに、賠償金の支払いを開始し、日系人の強制収容に関する教育を全米の学校で行うための教育基金も設立されました。

「911」

二〇〇一年九月十一日、アメリカで同時多発テロ事件が起こりました。その直後からイスラム系の人々に対するヘイトスピーチやヘイトクライムがアメリカ社会の中で起こります。なかにはイスラム系の人々の人権を制限しようとする動きもありました。

過去の強制収容の当事者であった日系人社会は、先頭に立ってこのような動きに反対する声を上げ続けました。当時アメリカの運輸長官をつとめていたノーマン・ミネタ氏は、人種プロファイリングによる身柄拘束は人種差別であると政府内で反対し、これを阻止しました。

同時多発テロ後のアメリカでは、人種による強制収容は行われませんでした。このときの日系人社会の動きを私は、誇りに思っています。

茅ヶ崎市とホノルル市の姉妹都市を通じて、こうした日系人の歴史がもっと多くの日本人に伝わることを期待したいと思います。

発行責任者 自民党神奈川県第十五選挙区支部事務局 盛 純二